

平成 19 年 6 月

宝物探し

所長 稲垣 一則

年金記録不明問題が問題になっています。その他様々な事件がマスコミを賑わしていますが、この国は本当に世界の先進国なのか、と思わずにいられません。昭和 30 年代、大宅壮一という一言居士の評論家が、テレビの急速な普及する様を見て「一億総白痴化」と称しましたが、彼がいま生きていれば何と表現するのでしょうか。

もともと本が好きで、休みの日や、仕事の移動時間に読んだりします。年間 30 冊から 40 冊は読んでいるのですが、最近になってあるきっかけで図書館をよく利用するようになりました。

その図書館のメリットとは

- その 1 10 冊まで 2 週間の期限で借りられます。
- その 2 期限があるから集中して読むようになります。
- その 3 様々なジャンルの書籍があり、視野が広がる。
- その 4 全集本が揃っている。
- その 5 土日でも開設している。

ちなみに、豊中には 6 つの市立図書館があり、何処でも借りられ、返却もできます。まだまだ自分の知らない世界の「宝物」があると思います。こうした「知」の財産を利用しない手はありません。

最近はおっぱら時代小説を読んでいます。池波正太郎の「鬼平犯科帳」は既に読み切り、今は「仕掛人・梅藤枝安」にはいっています。それと山本一力はいいですね。宮城谷昌光の中国古典小説も面白い・・・、等々尽きません。時間があれば「三国志」の再読と塩野七生の「口 - マ人の物語」を通読（全 15 巻中現在 5 巻まで）してみたいものです。これらは人物関係図のサブノートを作りながら読めば面白いと思います。

特に、塩野七生の「口 - マ人の物語」は、1992 年から年 1 冊のペースで書き上げ 2006 年に最終巻が完成するという、その作品に賭ける作者の意気込み、執筆内容、情熱に圧倒されます。読みたい本というよりも、買わなくてはいけない、買わずにられない、せめて購読して作者の気持ちに伝えたい、という希少な本だと思えます。